

県は、「神奈川県地震防災戦略（平成 28 年 3 月改定）」を策定し、県民総ぐるみで防災・減災対策に取り組んでいます。

想定される 地震の最大震度は 7 です

県が減災目標としている地震は、大正型関東地震です。

想定される県内の被害

死者数 31,550 人

家屋の全壊・焼失棟数 563,420 棟

最大震度は 7（県のほぼ全域で震度 6 強以上の揺れ）

大正型関東地震とは、相模トラフを震源域とするマグニチュード 8.2 の地震です。1923 年の関東大震災を再現した地震で、国も長期的な防災・減災対策の対象として考慮しています。

30 の重点施策で 死者数の半減を 目指します

神奈川県地震防災戦略では、“県民のいのちを守ることを最優先”、“自助・共助・公助が一体となった取組の推進”を基本的な考え方として、想定死者数の概ね半減を目指し、30 の重点施策を位置づけています。

神奈川県地震防災戦略（平成 28 年 3 月） - 県民総ぐるみアクションプラン -

<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/814557.pdf>

地震被害想定調査

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5151/p15579.html>

県では、啓発映像「神奈川県地震防災戦略CM動画
まず守るべきは自分自身」を作成し、啓発を図っています。

動画は、次のホームページで公開しています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f534317/>



神奈川県

神奈川県地震防災戦略



このリーフレットに関する問合せ先

神奈川県安全防災局安全防災部災害対策課計画グループ（電話番号：045-210-3425）



神奈川県

KANAGAWA

地震から身を守ろう！

あなたの周りの大切な人々を守るには、まず、あなたのいのちを守ることが第一です。自分の身を守るため、皆さんにこれだけは取り組んでいただくようお願いします。

大きな揺れを感じたら
『机の下にもぐる』
『危険な場所から離れる』など、
状況に応じた
「安全確保行動」をとりましょう。

地震から
自身を守る
自信ある？



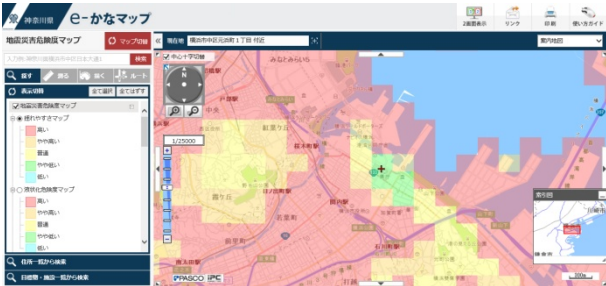
地震から
自身を守る



海岸近くで揺れを感じたら
すぐに高台に避難しましょう。

災害リスクを確認しましょう

「e-かなマップ」マップの例



市町村が作成した「ハザードマップ」や県のインターネット地図情報発信サイト「e-かなマップ」などを利用して、災害リスクを確認しましょう。

あわせて最寄りの避難場所や避難所、避難経路と避難にかかる時間などを把握することも大切です。

大規模な地震が発生したときにも適切な行動がとれるよう、まずは身の周りで考えられる災害や危険を知ることが重要です。

e-かなマップ

検索

家族で防災会議を開きましょう

「災害用伝言サービス」体験利用提供日

NTTなど各社では、災害発生に備えて利用方法を事前に覚えてもらえるように体験利用ができる日を提供しています。

毎月1日、15日	00:00～24:00
正月三が日	1月1日 00:00～ 1月3日 24:00
防災週間	8月30日 09:00～ 9月5日 17:00
防災とボランティア週間	1月15日 09:00～ 1月21日 17:00

次のような項目について、家族で身を守る方法を話し合っておきましょう。

災害発生時の
連絡方法の確認

NTT災害用伝言ダイヤル「171」
災害用伝言板「Web171」ほか、
携帯電話各社の災害用伝言板など

避難場所や避難所、
避難経路の確認

ハザードマップ、
市町村ホームページなど

危険箇所の確認

室内の大型家具は固定されてい
るか、出入口や通路に物を置いて
いないかなど

非常持出品の確認

必要品は揃っているか、
保存状態や使用期限の確認など

住宅の耐震化を行いましょ

すぐ取り始める！ 家具の転倒防止・ガラスの飛散防止

大地震発生・・・屋内に潜む危険とは？



県のホームページに身近な防災対策に関するリーフレットを掲載しています。詳しくはホームページをご覧ください。

自宅の耐震診断を行い、必要に応じて耐震改修を行ないましょう。

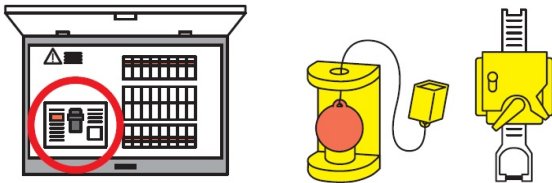
また、室内の危険な箇所を確認し、タンスや冷蔵庫など大型の家具や家電に転倒防止器具を取り付けましょう。

窓ガラスには飛散防止フィルムが効果的です。

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、昭和56年以前に建てられた旧耐震基準に基づく木造住宅が数多く倒壊し、多くの方が犠牲となりました。

感震ブレーカーなどを設置しましょう

感震ブレーカーの例



分電盤タイプ(内蔵型)

簡易タイプ

出典：経済産業省「感震ブレーカー普及啓発チラシ」

地震による出火防止には、地震を感知すると自動的にブレーカーを落とす「感震ブレーカー」が役立ちます。いろいろなタイプがありますので、住宅の状況に合わせて設置しましょう。

また、夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

東日本大震災の本震による火災のうち、過半数が電気関係による出火が原因でした。

地震による電気火災は、地震で本棚が倒れ電気ストーブ周辺に散乱した雑誌に火がついたもの、地震により電気トースターが落下し、その衝撃でスイッチが入り出火したもの、地震の揺れにより電源コードが損傷し、電力が復旧した後、通電して出火したものなど、直接の要因はさまざまです。

日頃から、必要なものを備蓄しておきましょう



災害時その“買い置き”が あなたを救う

 九都県市防災・危機管理対策委員会

最低3日分、可能なら1週間分の食料や飲料水などを備蓄しましょう。日頃から自宅で利用しているものを少し多めに備えることで、災害時に当面の間、自宅で生活することが可能となります。食べ物や日用品を少し多めに購入し、日常の中で消費・補充をしていくため、特別な準備は必要ありません。

大規模な地震の後、被災者に食料などが支給されるまでには、一定の時間がかかります。

みんなのまちはみんなで守ろう



消防団員募集キャラクター：火けし太郎

地域の一員として、消防団や自主防災組織の活動に積極的に参加しましょう。また、女性と男性では、災害から受ける影響に違いが生じることへの配慮が重要です。防災活動に女性ならではの視点を活かせるよう、自主防災組織の活動に広く女性が関わり、活躍することが求められています。

阪神・淡路大震災では、甚大な被害発生して都市機能がマヒした中、家族や友人、隣人など、近隣の住民が力を合わせた救助活動によって、数多くのいのちが救われました。

